

# 令和2年度 病害虫発生予察注意報第2号

令和2年11月6日  
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：炭疽病  
対象作物：イチゴ

## 1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
- (2) 発生が予想される時期：11～6月
- (3) 発生程度：多い
- (4) 防除時期：11月以降随時

## 2 注意報発表の根拠

- (1) 8月上中旬に行ったイチゴ育苗ほ場の巡回調査では、県下全域で平年と比較して発病株率、発生面積率ともに高い状況(表1、令和2年度技術情報第4号として発表)であった。そのため、潜在感染した多数の苗が本ほに定植されたと考えられる。
- (2) 10月中下旬に行ったイチゴ本ほの巡回調査では、東部地域の炭疽病平均発病株率7.4%(平年1.0%)、発生面積率40%(平年20%)、中部地域の平均発病株率7.2%(平年0.9%)、発生面積率20%(平年11%)、中遠地域の平均発病株率5.6%(平年0.9%)、発生面積率50%(平年18%)であり、県下全域で平年と比較して発病株率、発生面積率ともに高い状況である(表2)。
- (3) 病原菌の発病適温は25～30℃であり、株の萎凋症状や葉に斑点型病斑を示す(図1、2)。気象庁の1か月予報(10月31日～11月30日)では気温が平年並から平年より高い予想であり、施設内の温度が高く維持されるため本病の発生を助長するものと考えられる。

## 3 防除方法

- (1) 発病株が感染源となり周囲へ被害が拡大する。ほ場の見回りを徹底し、発病株や発病が疑われる株の早期発見に努める。発病株は培地も含めて抜き取りほ場外へ出す。罹病残渣は肥料袋などに入れ、残渣重量の半分程度の水を添加したうえで密閉し、嫌氣的発酵処理を行い処分する。冬期の場合、殺菌に2ヶ月程要する。
- (2) 発病後の治癒は困難であり定期的な予防散布が防除の主体となる。薬剤抵抗性発達を避けるため同一系統薬剤の連用をせず、異なるFRACコードの薬剤を用いてローテーション散布を行う。また、使用薬剤の収穫前日数に注意する(表3)。
- (3) 本病原菌の感染経路となるため、ランナー切除、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に薬剤散布を行う。
- (4) 発病により欠株した箇所は、予備苗や隣接株のランナーを用いて補植する。
- (5) 次年度の対策として、本病が発生したほ場は土壤消毒を徹底する。また、育苗ほの炭疽病対策を徹底し、感染した苗の本ほへの持ち込みを防ぐ。
- (6) 薬剤等の使用については、静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準(<http://www.s-boujo.jp>)を確認する。また、不明な点は病害虫防除所、農林事務所等など指導機関に問い合わせる。

表1 令和2年8月上中旬のイチゴ育苗ほ巡回調査における炭疽病発生状況

|     | 発病株率(%) |                   | 発生面積率(%) |     |
|-----|---------|-------------------|----------|-----|
|     | 令和2年8月  | 平年値 <sup>1)</sup> | 令和2年8月   | 平年値 |
| 東部  | 2.2     | 1.1               | 40       | 20  |
| 中部  | 2.0     | 0.7               | 43       | 12  |
| 中遠  | 10.2    | 1.0               | 33       | 17  |
| 県全体 | 4.9     | 1.0               | 38       | 17  |

1) 過去10年(2010~2019)の平均(うち2010、2013は欠測)



図1 萎凋症状を示した発病株

表2 令和2年10月中下旬のイチゴ本ほ巡回調査における炭疽病発生状況

|     | 発病株率(%) |                   | 発生面積率(%) |     |
|-----|---------|-------------------|----------|-----|
|     | 令和2年10月 | 平年値 <sup>1)</sup> | 令和2年10月  | 平年値 |
| 東部  | 7.4     | 1.0               | 40       | 20  |
| 中部  | 7.2     | 0.9               | 20       | 11  |
| 中遠  | 5.6     | 0.9               | 50       | 18  |
| 県全体 | 6.7     | 0.9               | 37       | 15  |

1) 過去10年(2010~2019)の平均



図2 葉と葉柄に発生した病斑

表3 イチゴの炭疽病に対する主な防除薬剤<sup>1)</sup>

| 商品名                        | 使用方法 | 希釈倍数<br>使用量 | 使用時期               | 使用回数 | FRAC<br>コード |
|----------------------------|------|-------------|--------------------|------|-------------|
| アミスター20フロアブル <sup>2)</sup> | 散布   | 2000倍       | 収穫前日まで             | 3回以内 | 11          |
| オーソサイド水和剤80                | 散布   | 800倍        | 収穫30日前まで           | 3回以内 | M4          |
| ゲッター水和剤 <sup>2)</sup>      | 散布   | 1000倍       | 収穫開始21日前まで         | 3回以内 | 1、10        |
| サンリット水和剤                   | 散布   | 2000倍       | 収穫前日まで             | 3回以内 | 3           |
| シグナムWDG <sup>2)</sup>      | 散布   | 2000倍       | 収穫前日まで             | 2回以内 | 7、11        |
| セイビアーフロアブル20               | 散布   | 1000倍       | 収穫前日まで             | 3回以内 | 12          |
| チオノックフロアブル                 | 散布   | 500倍        | 生育期(但し、収穫開始21日前まで) | 2回以内 | M3          |
| トレノックスフロアブル                | 散布   | 500倍        | 生育期(但し、収穫開始21日前まで) | 2回以内 | M3          |
| ニマイバー水和剤 <sup>2)</sup>     | 散布   | 1000倍       | 収穫前日まで             | 3回以内 | 1、10        |
| ファンタジスタ顆粒水和剤 <sup>2)</sup> | 散布   | 2000倍       | 収穫前日まで             | 3回以内 | 11          |
| ファンベル顆粒水和剤 <sup>2)</sup>   | 散布   | 1000倍       | 収穫前日まで             | 3回以内 | 11、M7       |
| ベルコートフロアブル                 | 散布   | 2000倍       | 収穫前日まで(生育期)        | 5回以内 | M7          |
| ICボルドー66D <sup>3)</sup>    | 散布   | 100倍        | -                  | -    | M1          |
| コサイド3000 <sup>3)</sup>     | 散布   | 1000倍       | -                  | -    | M1          |
| タフパール                      | 散布   | 2000~4000倍  | 育苗期~収穫前日まで         | -    | -           |

1) イチゴの炭疽病に適用登録のある薬剤から本ほに使用できるものを掲載

2) FRACコード: 1、10、11の薬剤は県内で耐性菌の報告があるため、使用にあたっては注意する

3) 銅剤の使用にあたっては果実の汚れに注意する

問い合わせ先: 静岡県病害虫防除所 (TEL: 0538-36-1543)